

症例報告書の記入上の注意

1. 各項目には字数制限が設けられているため、制限字数内で入力すること。文字数はスペース込みの字数とする。(字数確認は、MS Word の「校閲」メニュー内の「文字カウント」機能を使用し、その「文字数 (スペースを含める)」に準ずる)
2. 【診療形態】は、患者が外来通院中か、入院中か、在宅ケア中かで区分し、外来の場合は緩和ケア外来かそれ以外の一般外来を、入院の場合は緩和ケア病棟 (PCU) か一般病棟を、さらに一般病棟の場合緩和ケアチーム介入の有無を、それぞれ選択する。複数の診療形態をとっている場合は該当するものの全ての項目を選択し、現病歴あるいは経過で言及すること。
3. 【主に緩和医療を提供した期間】は、実年月を記載すること。
4. 【介入の経緯】は、緩和医療の受療の仕方を記載する。「直接受診」は主治医の紹介を受けず、患者自身が 直接当該科を受診した場合に選択する。
5. 【転帰】は、今回症例報告として記載する介入が終了した時点でのものとする。例えば、背部痛を主訴に一般外来から一般病棟に入院し、鎮痛剤や放射線治療の緩和医療を受けて軽快退院し、外来フォローに戻った場合は、「外来 (一般)」を選択する。「死亡」の「看取り有・無」は、主治医として看取ったかどうかを記載する。緩和ケアチームとして関わった患者が死亡した場合は、主治医ではないので「看取り無」を選択する。研修期間中に転帰が確定しなかった場合には、施設における介入の転帰を記載し、介入後の経過内で分かるように記載すること。
6. 「確定診断名」は、略語は避け、主病名は 1 つ、副病名は症状緩和に関係する主要なもの 3 つ以内とする。
7. 【介入時の主訴】は、原則として主なもの 1 つを記載するが、やむなく 2 つ以上記載する場合は【介入後の経過】でそれらについて言及すること。
8. 【既往歴】、【家族歴】、【生活歴】は必要なものに絞って記載する。
9. 【介入時までの現病歴】は、介入となるまでの治療の経過と主訴との関係がわかるように記載する。画像診断所見は本欄あるいは次欄に記載するが、主訴との関係性を重視し、不要な正常所見は省くなど簡潔にまとめること。
10. 【介入時の現症】は、正しい用語を用いて要領よく記載する。検査所見は単位も記載する。
11. 【介入後の経過】は、介入後に主訴がどのように変化したか、それがわかるように、治療・ケアや病状の経過を要領よく記載する。症状、特に痛みの評価は一般に用いられているスケールで表記し、同

一症例内では統一する。複数の医師が介入してわかりにくい場合、申請者には下線を付すなど表記を工夫する。薬剤は用法・用量も単位を含めて記載する。また、介入終了時に処方がある場合は、症状緩和に必要なもののみ記載する。なお、薬剤名は原則として一般名を記載する。

12. 【考察】は、単に施行した治療・ケアの妥当性や今後に向けての改善点等について記載するだけでなく、その患者の全人的苦痛を理解する立場から、家族や社会との関係性や療養の場の選択など、幅広く検討し記載することが望ましい。ある治療手段の選択に参考となる文献等がある場合には、必要最小限のものを記載する（筆頭著者名 誌名 発行年；例. Morita T.Lancet Oncol 2013）。
13. 【本例から学んだこと】は、この症例の問題点や今後の課題、改善点等について、簡潔に記載する。
14. 全ての記載項目でプライバシー保護に配慮し、個人が特定されないよう留意する。
本文中には自分の勤務している医療機関を当院、他の医療機関で複数ある場合は A 病院と B 病院等として、実名は記載しないようすること。
15. 症例登録システムの【備考】は、個々の症例に対してメモを付与する機能である。審査には回らない項目なので注意すること。症例登録後に一覧画面から備考を確認できる仕様となっている。
16. 日本緩和医療学会の緩和医療関連用語集で推奨されている用語を用いること。
17. 症例報告書において、以下の略語は初出時の正式名称の記載を不要とする。その他の略語については初出時に正式名称を記載すること。

ECOG PS (Eastern Cooperative Oncology Group Performance Status)

PS (Performance Status)

KPS (Karnofsky Performance Scale)

EBM (Evidence-Based Medicine)

NBM (Narrative-Based Medicine)

NRS (Numerical Rating Scale)

VAS (Visual Analogue Scale)

PD (Progressive Disease)

SD (Stable Disease)

PR (Partial Response)

CR (Complete Response)

CT (Computed Tomography)

MRI (Magnetic Resonance Imaging)

ECG (ElectroCardioGram)

DNAR (do not attempt resuscitation)

採血データ (WBC、AST など) に関しては略語可

18. ※専門医新規申請のみ※

【診療施設名】は1病院あたり、再認定/認定種別の変更（認定研修施設から基幹施設への変更など）を理由として、複数候補が出てくる場合があります。認定期間が終了しているものは「(認定終了)」と記載されていますが、症例の期間に該当する場合には選択可能です。

上記の理由により、「主に緩和医療を提供した期間」が複数の施設種別の期間を跨ぐ場合には主要な介入を行った期間に該当する施設種別を選択してください。

「主に緩和医療を提供した期間」は認定期間に準拠する為、開始日および終了日は認定期間内でご入力ください。その上で「介入時までの現病歴」の冒頭に実際の提供した期間を記入してください。